

石巻港 港湾計画（改訂）概要

1. 沿革と現状

石巻港は、仙台湾北部に位置し、古くから石巻市を中心とする宮城県北部の物流拠点として発展し、昭和39年に重要港湾に指定されてからは、新産業都市仙台湾地区の地域開発の中核として重要な役割を果たしてきており、背後地域の産業活動を支える典型的な工業港となっている。

既存の釜地区かまちくにおいては、水際線及び用地とも拡張の余地がない状況にあることから、船舶の大型化に対応した大水深岸壁の整備と立地企業の拡張用地の確保などを目的とした外港展開のため雲雀野地区ひばりのちくの整備が進められ、平成10年に水深13m岸壁が一部供用開始している。

近年、経済・産業のグローバル化が進展し、国際間・企業間の競争が激化する中、本港は、紙・パルプ関連、木材・木製品製造業関連、飼肥料関連等の基幹産業を支える生産活動基盤としての役割を担っており、東北地方における紙・木材・飼料の拠点港、宮城県の開発拠点港として、物流機能の拡充・基幹産業を支える工業港としての機能をさらに充実させていくことが必要となっている。

また、船舶の大型化への対応、安全な荷役環境を確保するための港内静穏度の向上、交通アクセスの強化を進め、背後圏産業の競争力を高めていくことが必要となっている。

一方、魅力あるみなとづくりの観点から、水際線の開放及び緑地・広場等の整備やフェリー・旅客船施設のバリアフリー化等による潤いのある親水空間の一層の創出が求められている。

2. 港湾計画の主な方針

経済・産業のグローバル化が進展する中、石巻港は、『産業活動を支え、地域経済や市民生活の安定・向上に貢献する港湾』を将来像として掲げ、平成20年代後半を目標年次として、以下のような方針により、港湾計画を改訂するものである。

1) 産業競争力の強化を支援する物流機能の強化

立地企業の国際的な競争力を確保するため、船舶の大型化に対応した物流機能の強化を図る。

2) 震災時の緊急避難及び緊急物資輸送機能の確保

大規模地震発生時の緊急避難及び緊急物資の輸送路の確保をするため、防災機能の強化を図る。

3) 港内静穏度の向上

風波・長周期波に対する安全で効率的な荷役と船舶の安全な航行・停泊を確保するため、港内静穏度の向上を図る。

4) 臨港交通体系の強化

港湾における交通の円滑化を図る。

5) 賑わいのある港まちの再生

人々が気楽に訪れ、港や海に接することができる親水空間を確保し、中心市街地と港の交流・レクリエーション機能を連携させることで、賑わいのある港まちの再生を図る。

また、フェリー・旅客船施設のバリアフリー化を図る。

6) 放置艇の適正な収容

港内に放置されているプレジャーボートを集約するため、既存施設を有効活用した収容施設の充実を図る。

3. 石巻港の位置及び現況



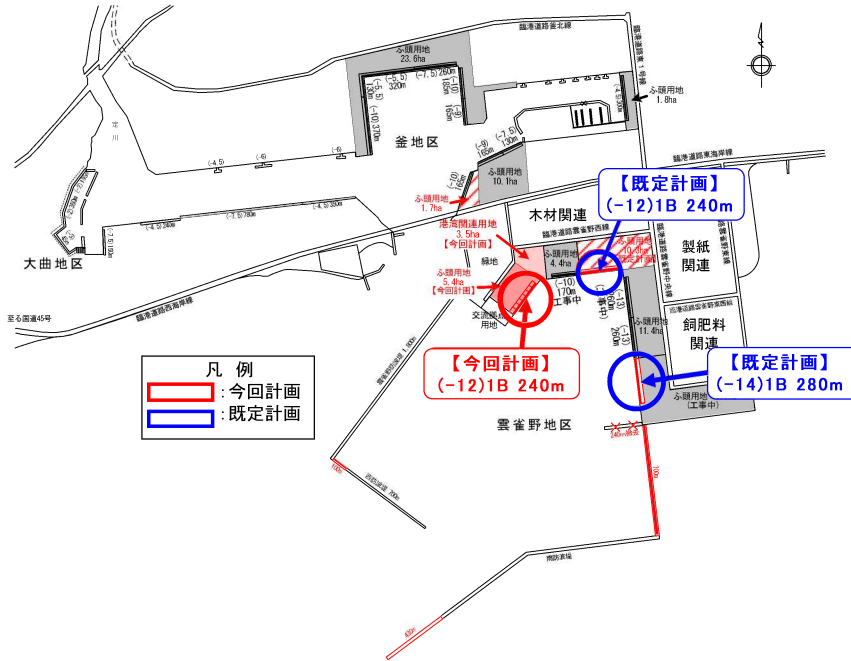
石巻港現況写真

4. 主な計画内容

◇◇産業競争力の強化を支援する物流機能の強化◇◇

[雲雀野地区]

立地企業の国際的な競争力を確保するため、雲雀野地区に船舶の大型化に対応した岸壁を新たに計画する。

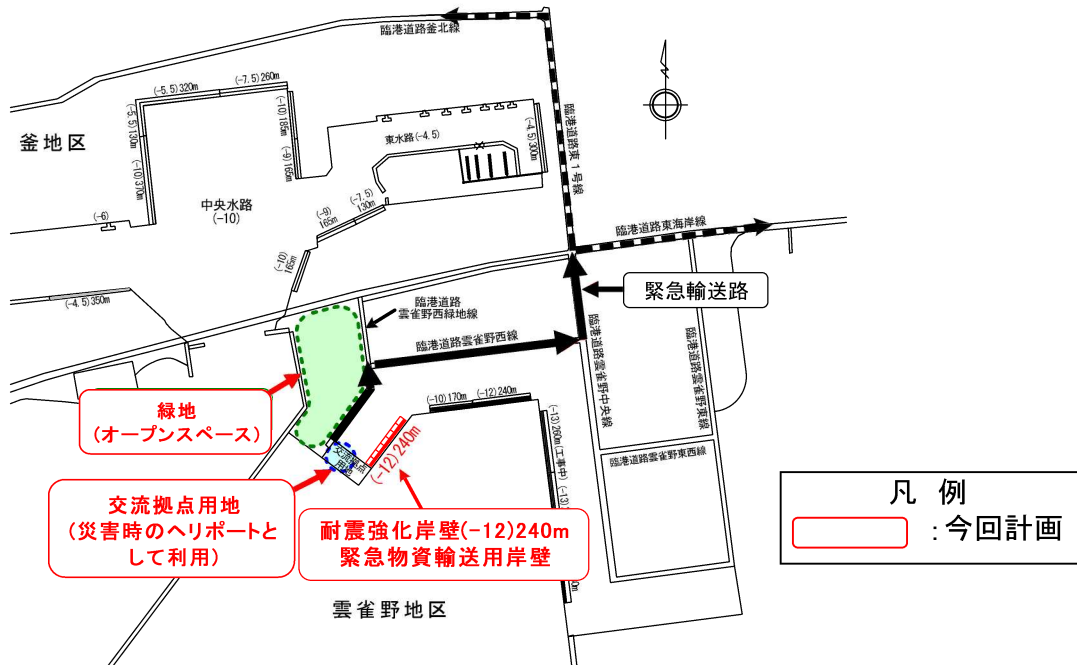


◇◇震災時の緊急避難及び緊急物資輸送機能の確保◇◇

[雲雀野地区]

石巻港の防災機能の強化を図るため、雲雀野地区において耐震強化岸壁を新たに位置づける。

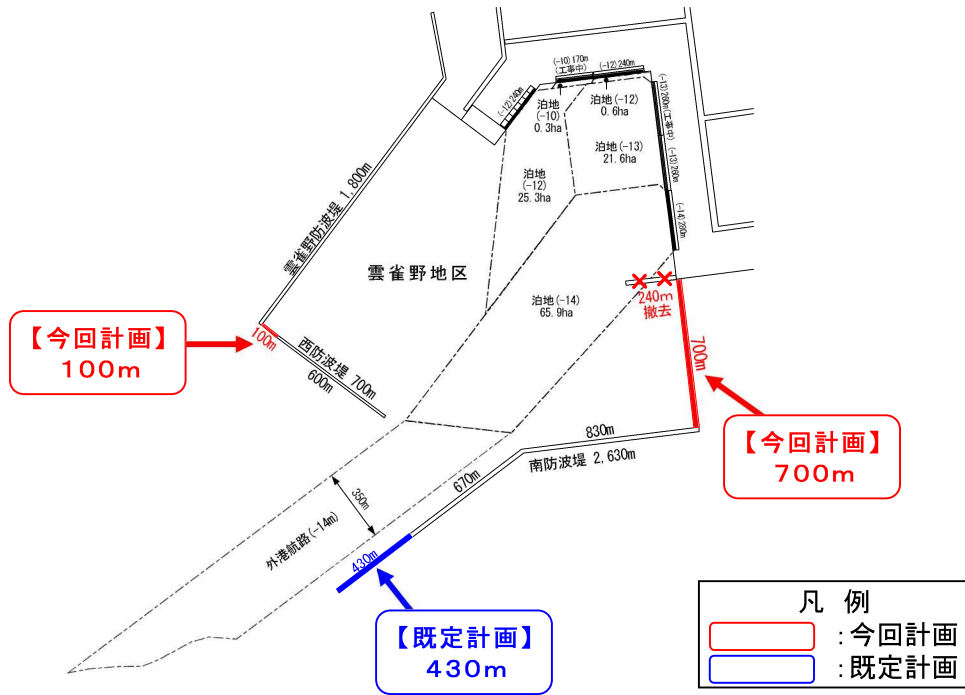
また、緊急物資の保管等、地震発生時のオープンスペースとして活用するため、その周辺に港湾緑地及び交流拠点用地を位置づける。



◇◇港内静穏度の向上◇◇

[雲雀野地区]

風波・長周期波に対する安全で効率的な荷役と船舶の安全な航行・停泊を確保するため、南防波堤及び西防波堤を新たに計画し、港内静穏度の向上を図る。



◇◇臨港交通体系の強化◇◇

[雲雀野地区]

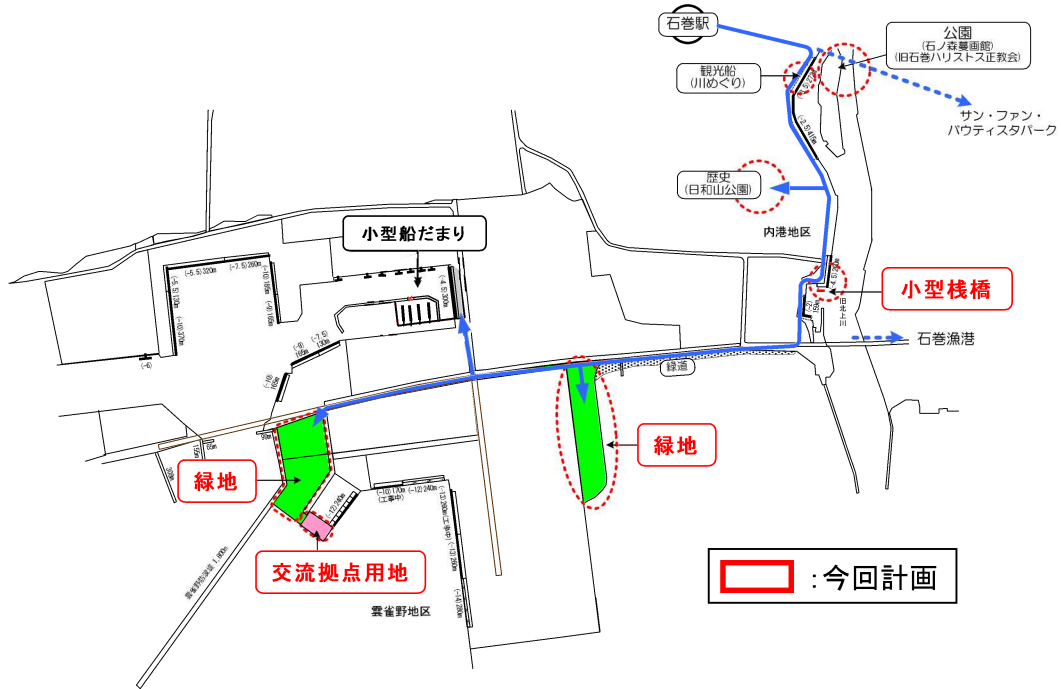
港湾における交通の円滑化を図るため、臨港道路西海岸線については既定計画どおりとする。



◇◇賑わいのある港まちの再生◇◇

[雲雀野地区、内港地区]

人々が気楽に訪れ、港や海に接することができる親水空間を雲雀野地区に新たに計画し、中心市街地と港の交流・レクリエーション機能を連携させることで、賑わいのある港まちの再生を図る。また、内港地区においては、バリアフリーに対応した小型栈橋を計画する。



◇◇放置艇の適正な収容◇◇

[釜地区]

港内に放置されているプレジャーボートを集約するため、釜地区に既存施設を有効活用した小型船だまりを新たに計画する。

